

造へ向け話し合い

第3回日野町まちづくり町民会議

まちの課題やこれからのまちづくりなどについて話し合う日野町まちづくり町民会議（生田公恵会長）が、8月20日、町役場で開かれました。今回の会議は、3つの班に分かれてグループ討議を行いました。その主な内容をお知らせします。



それぞれの意見をざっくばらんに話し合い

活性化への取り組みを

第1班の討議内容

【主な意見】

人が減り町が寂しくなる。町が元気に活性化する話をしたい

私の集落は、すべてが独居で平均年齢75歳。夢も希望もない生活である。高齢者に何かあればどこに連絡するのか。誰が面倒見の。それが頭から離れない

鵜の池や滝山の草刈りに協力はあるのか。道の草刈りも大変である

自分の集落では、携帯電話が入らない家が1〜2軒残っている

自分の集落も携帯電話がつながらない。どうしたらいいのか、若い人がいないので分らない

町内に働く場所がないから子どもが都会に出てしまう。町内企業を1件でも増

やしたい。自分は日南町に勤務し、家族は伯耆町、境港市と、みんな町外に勤めている

工場の誘致が必要。江府町はサントリー、日南町はオロチを誘致している

都会から畑仕事をしに来るような施策はないのか。米を作っているが、作業委託してしまうと収入にならない

農家がどんなことをしているのか、役場にももっと関心を持ってほしい

町道が傷んでいる箇所がある。維持管理はどのようにしているのか。町道を点検してほしい

道の管理も、業者任せにせず、自分たちで材料を出すなどしたい

■まとめ

- ①人口減少に歯止め。夢のあるまちづくりや企業誘致、農産物のブランド化を
- ②高齢者対策や携帯電話の不感地区解消、道路の整備、町道の点検
- ③役場職員が地域へ出向いて連帯を図る

元氣が出るまち創

地元の米を守りたい

第2班の討議内容

【主な意見】

ライスセンターの閉鎖により、日野町産という名前の米がなくなってしまう。ライスセンター所在地の名前になり、他町の米と混ざってしまうので、どこの米なのか分からなくなる。ライスセンター運営には莫大な費用がかかる。JAにも維持するような体力がない。討議テーマに「日野町の米を守る」というのはどうか。

■まとめ

- ①日野町産の米を守る
- ②消防団員の確保、消防水利の確保
- ③日野町独自の目玉商品を作る
- ④日野町の人口をいかに増やすか
- ⑤次世代の人材育成

う支援を

江府町や日南町はまとまりがあるように感じるが、日野町では根雨、黒坂、上菅の3つの駅で町が分かれている印象がある。

全国的に有名な奥大山ブランドのおかげか、江府町民は自信を持っているように感じる。

マツタケ祭りがなくなり、滝山が寂れていったように思う。お金をかけて整備したにもつたいない。

オシドリ観察の観光客は多いがお金が落ちてこない。落としたくても落とす所がないのでは。今の状態では観光で飯は食えない。住民一人一人がPRしなければならぬ。日野町に勢いがいないのは人口減少が大きな理由。昔は活気があった。

特産品の復活を

第3班の討議内容

【主な意見】

集落が高齢化し、自治会活動がしにくい。一番困っている集落はどこなのか。町に資料提供をお願いしたい。

何が一番苦労されているのか。根雨のまち部では買物物は簡単だが、地域によつてはそれにも出かけられない。

自治会でいいことを思いついても長続きしない。人間関係もぎすぎすし、地域を良くしようとする使命感もない。まず話すことから人間関係を作りたい。

日野町には特産品がない。ほかの町では、町がリードを取って特産品を作っている。以前は水稲、畜産、シイタケとあったが今は高齢化してきている。何か町で力を入れてもらいたい。

■まとめ

- ①限界集落などの実態把握
- ②農林業でブランド品の創出
- ③まち部でのステーション方式のごみ収集の推進
- ④家庭用火災警報器へ助成を

町はPR不足。外に発信してほしい。

いいものを作っているバラバラでやっている。

ごみの分別について。あるところでは32種類の分別を行っている自治体もある。分別することで処理費用を浮かせ、浮いた分が福祉の分野に充てられている。また、ステーション方式の収集について、根雨・黒坂の各代表に話をしてみてもどうか。

家庭用火災警報器の設置が義務化されているが、まだ知らない人も多く、取り付けられていない。1個4000円程度だが、町で取り付けの助成があれば自治会で取り付けられたところもある。1軒に1個ではなく、2階や台所などにも必要になる。

次回の会議は10月29日(木)の予定です